

# 水町遺跡

2021年

日田市教育委員会







調査区遠景（南から）  
黄色点線囲み部分が調査区





## 序 文

日田市は、九州北部のほぼ中央、大分県の西北部に位置しています。

市の中心は盆地であり、その周囲は山々に囲まれ、そこからの豊富な水<sup>すいきょう</sup>が清流となって私たちの街を潤すことから、「水郷日田」の名で広く親しまれています。

この豊富な清流はやがて九州随一の大河・筑後川の滔々たる水の一部となり、筑後・肥前を経て有明海へと至ります。この水の流れがあったからこそ、文化の面でも日田は交通の要衝となりえ、古くからの河川交通を利用した周辺地域との交流、古代には大宰府と豊後国衙を結ぶ官道の駅が設置され、また近世には江戸幕府の直轄地として西国筋郡代が置かれ、九州の政治・経済・文化の中心として栄えた輝かしい歴史を誇ります。

本書は、当委員会が平成 30 年度に店舗建設工事に伴って発掘調査を実施した水町遺跡の発掘調査の内容をまとめたものです。

調査では、弥生時代から中世の堅穴住居跡や建物跡などが発見され、当時そこに暮らした人々が使っていたであろう土器などの遺物が出土しています。この場所は三隈川（筑後川）の支流である花月川にほど近く、川とともに生きた人々の集落だったのかもしれません。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書を、文化財の保護や地域の歴史、学術研究などに大いに活用していただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の作成に至るまで、御指導・御協力をいただきました多くの方々に対し、心から感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月

日田市教育委員会

教育長 三筈 真治郎

## 例　　言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成30年度に実施した水町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、店舗建設工事に伴い、相光石油株式会社の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査にあたっては、関係者のほか地元の方々にもご協力・ご配慮をいただいた。
4. 発掘調査での調査地および構造等平面図、土層図作成（製図含む）は、有限会社九州文化財リサーチに委託した。また、出土遺物のうち石器の実測・製図及び写真撮影は雅企画有限公司に委託した。土器類の実測および写真撮影は、行時が行い、製図は矢羽田・上原の協力を得た。なお、調査現場での写真撮影は調査担当者が行った。
5. 本書に掲載した空中写真は、九州航空株式会社に委託した。
6. 採図中の方位は、方眼北を示している。
7. 写真図版の遺物に付した数字番号は、採図番号に対応する。
8. 出土遺物および調査に関する記録等は、一括して日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 本書の編集および執筆は、行時が行った。

## 目　　次

I 調査の経過 .....	1
II 遺跡の立地と環境 .....	4
III 調査の内容 .....	5
(1) 調査の概要 .....	5
(2) 遺構と遺物 .....	5
IV 総括 .....	17

## 写真図版目次

巻頭写真図版　調査区遠景／調査区全景

図版1　調査区全景／追加調査地の一部

図版2　1号堅穴建物

図版3　2号堅穴建物／掘立柱建物／溝／堅穴遺構／1号土坑

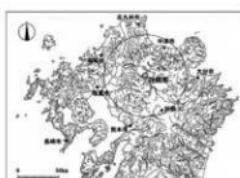
図版4　2～10号土坑

図版5　出土遺物

## 本文写真目次

写真1　調査風景

写真2　予備調査風景



日田市の位置



大分県行政地図

## 挿図目次

第1図　調査地位置図（1/5,000） .....	3
第2図　予備調査トレントと発掘調査範囲図（1/500） .....	3
第3図　周辺遺跡分布図（1/30,000） .....	4
第4図　遺構配置図（1/300） .....	5
第5図　1号堅穴建物・カマド実測図（1/60・1/30） .....	7
第6図　1号堅穴建物出土遺物実測図（1/4） .....	8
第7図　2号堅穴建物・掘立柱建物実測図（1/60） .....	9
第8図　2号堅穴建物・掘立柱建物出土遺物実測図（1/4） .....	10
第9図　溝・堅穴遺構、溝出土遺物実測図（1/80、1/60、1/4） .....	11
第10図　土坑実測図①（1/40） .....	12
第11図　土坑実測図②（1/40） .....	13
第12図　土坑出土遺物実測図①（1/4） .....	13
第13図　土坑出土遺物実測図②（1/4） .....	14
第14図　その他の出土遺物実測図（1/4） .....	16
第15図　石器実測図（1/2、2/3） .....	16

## 表目次

第1表　土器観察表① .....	18
第2表　土器観察表② .....	19
第3表　石器観察表 .....	19

## I 調査の経過

### (1) 調査に至る経過

平成 30 年 8 月 30 日付で相光石油株式会社（以下「事業者」）より、日田市大字渡里字水町 1488 番 1 ほか 2 筆（現況：水田）について、店舗（ガソリンスタンド）建設工事に先立つ埋蔵文化財の所在に関する照会文書（事前審査番号 2018058）が日田市教育委員会（以下「市教委」）あてに、また文化財保護法第 93 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘の届出（以下「届出」）が大分県教育委員会（以下「県教委」）あて（市教委から県教委へ進達）に提出された。この工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である日田条里遺跡に該当することから、その取扱いについて協議及び予備調査が必要である旨を文書回答するとともに、届出については市町村の所見を「発掘調査（予備調査）として県教委に進達した。その後県教委からは「発掘調査」の指示を受けたことから、平成 30 年 9 月 21 日付で事業者より予備調査依頼文書が提出され、同年 10 月 10～12 日に予備調査を実施した。予備調査では、現地表下約 25～30 cm（現況水田の基盤土直下）で弥生時代後期・古墳時代前期・同後期の堅穴建物や土坑などが確認され、工事対象地内東～南西に帶状に遺構が分布する遺跡の存在が明らかとなった。店舗の特性から、建物基礎と貯蔵タンクは遺構検出面よりも深く掘削が及び遺跡の破壊を免れ得ないため、本調査の実施に向けて事業者と位置や工法の変更について協議を重ね、建物の位置は動かせないもののタンクを遺跡外もしくは遺構密度の低い部分に移動させ調査期間・面積・費用の軽減を行うことで合意し、調査対象面積を遺構検出面より深くまで掘削が及ぶ範囲約 305 m<sup>2</sup>として、平成 30 年 11 月 28 日付で発掘調査（本調査）実施の依頼を受けた。翌 29 日付で平成 30～32 年度の 3 年間にわたる発掘調査から報告書印刷までの協定書を、さらに翌 30 日付で平成 30 年度（履行期間：平成 30 年 11 月 30 日～平成 31 年 3 月 20 日）の発掘調査に係る委託契約を取り交わした。

### (2) 調査の経過

発掘調査は、平成 30 年 12 月 7 日より開始した。

平成 30 年 12 月 7・10 日に重機による表土除去及び遺構検出を行い、同 13 日から作業員による遺構検出及び遺構掘下げ作業を進めた。遺構検出の結果、堅穴建物・土坑・ピットなどが確認された。同 26 日から調査補助業務を開始し、翌年 1 月 16 日に空撮、同 18 日にコンテナハウス・トイレの搬出をもって終了した。

ところが、上記発掘調査終了後の工事実施に伴い、地質上の問題により工事で必要な掘削範囲が増加したことから、記録保存の措置を講じる埋蔵文化財の範囲を変更する必要が生じた。2 月 12 日に事業者が提供する重機で増加対象範囲の遺構検出を行い、遺構の内容を確認したうえで 2 月 21 日付で委託契約を変更（履行期間：平成 30 年 11 月 30 日～平成 31 年 3 月 28 日、調査対象面積：約 330 m<sup>2</sup>）し、同 25 日から作業員による遺構検出・掘り下げを開始した。3 月 5 日から調査補助業務を開始し、翌 6 日に遺構実測（補助業務）をもって現場作業を終了した。

整理作業は、令和元年 7 月 16 日から開始し、出土遺物の洗浄・注記・接合の各作業を 12 月 23 日まで行った。出土遺物のうち石器の実測・製図及び遺構等製図作業については、同年 12 月 24 日に業務発注し、翌年 3 月 27 日までに業務を完了した。なお、遺構製図の一部については、現場作業完了後の平成 31 年 3 月 13 日に業務発注し、同 26 日に完了している。また出土遺物のうち土器の実測・製図・写真撮影および報告書執筆・編集作業については、令和 2 年度に報告書担当及び調査員にて実施した。

### (3) 周知遺跡の変更

（1）にて記述したように、調査地は「日田条里遺跡」の範囲内にあたることから、事業者との協定・契約における遺跡名を「日田条里遺跡水町地区」としていたが、調査の結果、条里遺構とは内容や時代の異なる遺構が確認されたことから、周辺の現地踏査を行ったうえで範囲を推定し、「水町遺跡」として令和元年 9 月 24 日付で

新規登録を県教委に届け出て、同 10 月 11 日付で遺跡台帳に登載された（台帳登録番号：204384）。

#### (4) 調査の組織

水町遺跡発掘調査の調査主体は日田市教育委員会であり、発掘調査にかかる各年度の体制は以下のとおりである。（職名・氏名は当時のまま）

#### 平成 30 年度（2018 年度） 発掘調査

調査責任者 三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）

調査統括 梶原康弘（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 安岡佳克（日田市教育庁文化財保護課 主幹 埋蔵文化財係総括）

今田秀樹（同主査） 長祐一郎（同主査）

調査担当 若杉竜太（同主査） 行時桂子（同主査）

調査員 今田秀樹（同主査） 上原翔平（同主任） 臨時調査担当

発掘作業員 小野昭宣 河津モリ 合原建國美 小暮裕次 財津真弓 坂本隆 坂本由紀子 佐藤継信

長谷部修一 松下宣男 宮崎芳信 森山敬一郎 和田征二

#### 平成 31 年度（令和元年度／2019 年度） 整理・報告書作成作業

調査責任者 三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）

調査統括 宮本達美（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 安岡佳克（日田市教育庁文化財保護課 主幹 埋蔵文化財係総括） 河津秀樹（同主幹／7 月～）

今田秀樹（同主査） 長祐一郎（同主査） 水嶌武彦（同主査／4 月） 橋口かおり（臨時職員）

整理担当 行時桂子（同主査）

調査員 今田秀樹（同主査） 上原翔平（同主査）

整理作業員 岐部みか 佐藤忍 千原加代子 吉田里美

#### 令和 2 年度（2020 年度） 報告書作成作業・報告書印刷

調査責任者 三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）

調査統括 吉田博嗣（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 矢野登士太（日田市教育庁文化財保護課 主幹 埋蔵文化財係総括）

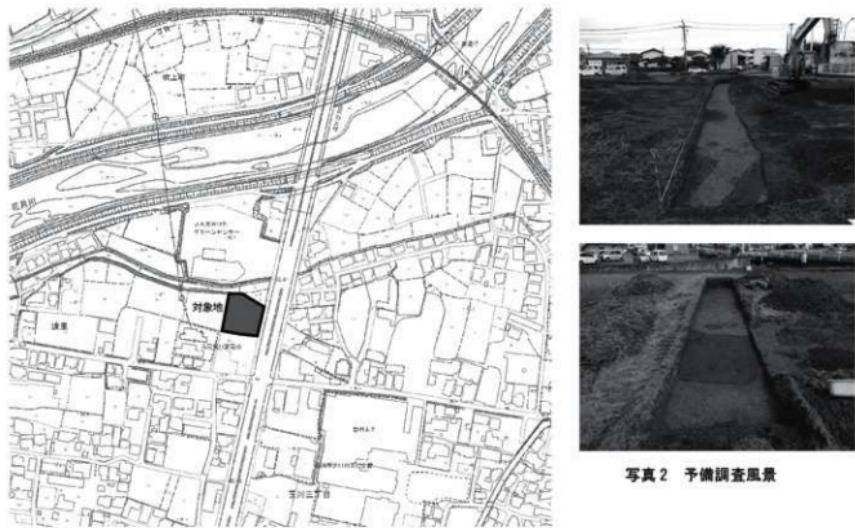
今田秀樹（同主幹） 井上純（同主査） 原田弘徳（同主査／～9 月）

報告書担当 行時桂子（同主査）

調査員 今田秀樹（同主幹） 矢羽田幸宏（同主査／10 月～） 上原翔平（同主査）



写真 1 調査風景



第1図 調査地位置図 (1/5,000)

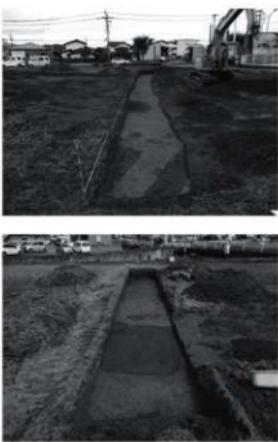
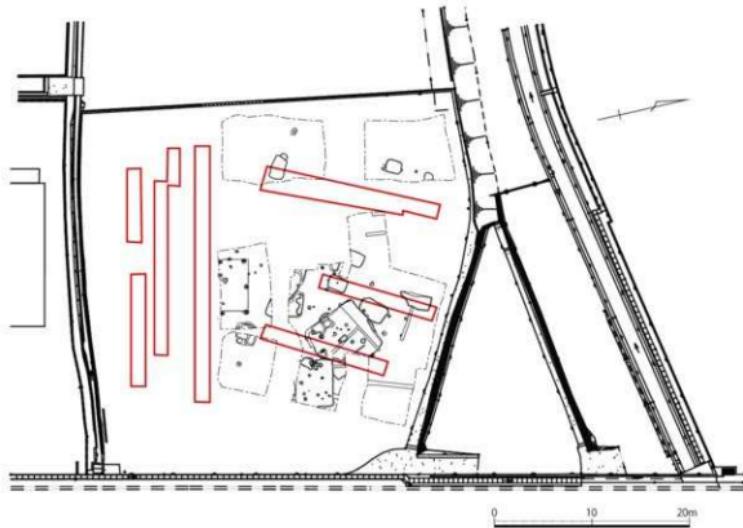


写真2 予備調査風景



第2図 予備調査トレンチと発掘調査範囲図 (1/500)

## II 遺跡の立地と環境

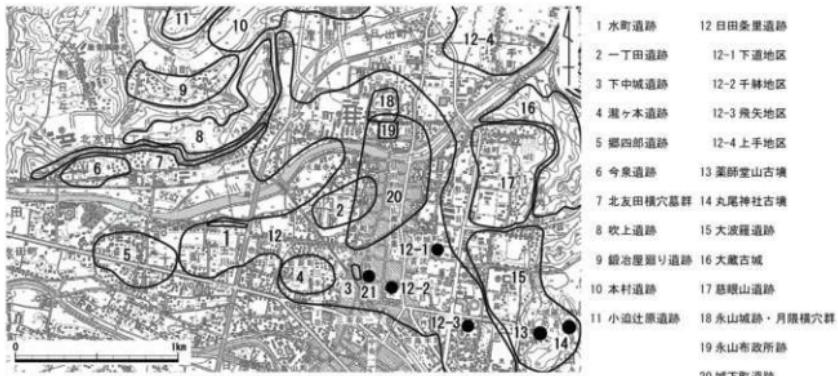
水町遺跡(1)は大分県日田市大字渡里に所在する。

日田市は大分県の西部、九州全体では北に偏った中央内陸部に位置し、周囲を阿蘇・くじゅう山系や英彦山系に囲まれた盆地を中心とし、これらの山々から流れ出る豊富な水は九州最大の河川、筑後川となり、日田盆地を貫流して有明海へ流れ込む。水町遺跡は、この筑後川の支流で盆地中央北寄りを西流する花月川の左岸冲積微高地に位置する。一帯は元々水田が広がっていたが、国道バイパスの開通に伴い、宅地化市街地化が進んでいる。

周辺の遺跡を概観する。本遺跡の東には、弥生・古墳・中世の集落と、古墳時代中期の堅穴状遺構から鉄鉋が出土した一丁田遺跡(2)、弥生時代の堅穴建物や中世の柱穴列などが確認された下城遺跡(3)、繩文時代から古墳時代の包含層が確認された瀧ヶ本遺跡(4)がある。また本遺跡の南西には、弥生時代から中世の遺物包含層や古墳時代の堅穴建物などが確認された郷四郎遺跡(5)がある。花月川の北側は台地が迫っており、台地裾部には弥生時代から古代の集落が確認された今泉遺跡(6)、台地の南面崖面には古墳時代後期の北友田横穴墓群(7)、台地上には弥生時代の大規模集落と特定集団墓が確認された吹上遺跡(8)がある。この台地の北の谷には、弥生時代から古代の集落が確認された鍛冶屋廻り遺跡(9)・本村遺跡(10)がある。この谷の北の台地上には、古墳時代初頭の豪族居館が確認された小追辻原遺跡(11)がある。

盆地の東側に目を移すと、沖積面には古代の水田層が確認された日田条里遺跡四反畠地区(12-1)、古墳時代から古墳時代～中世の遺構が確認された日田条里遺跡千軒地区(12-2)がある。このあたりからさらに東側は盆地の東端を区切る丘陵へと続いている。丘陵裾部には古墳時代から古代の集落や古代の大溝が確認された日田条里遺跡飛矢地区(12-3)や、繩文時代から古代の集落と古代の大型建物・柱穴列や墨書き土器が確認された大波羅遺跡(15)があり、古代の公的施設の存在が想定されている。これらの東の丘陵には、市内唯一の円筒埴輪の出土が確認された大型円墳である薬師堂山古墳(13)や円墳の丸尾神社古墳(14)などの古墳が築造されている。中世大藏姓日田氏の居城とされる大藏古城跡(16)の眼下には、15～16世紀の屋敷跡が広がる慈眼山遺跡(17)、11～12世紀の建物跡が確認された日田条里遺跡上手地区(12-4)がある。近世になると大藏古城跡の北西の独立丘陵に永山城(18)が築城され、その城下町として豆田町が成立し、その大部分が城下町遺跡(20)に含まれている。17世紀半ばとされる永山城廃城後は代官支配地となり、城の南に永山布政所(19)が置かれ、幕末まで至る。城下町の南には18世紀後半に儒学者廣瀬淡窓が開いた私塾成宣園(21)があり、現在も国史跡として残されている。

『参考文献』『日田市史』日田市 1990 ほか日田市教育委員会発行の関係道路報告書など



第3図 周辺遺跡分布図 (1/30,000)

### III 調査の内容

#### (1) 調査の概要 (第4図)

調査地は、花月川左岸の標高約82mの沖積地に位置する。調査対象地一帯は水田として利用されてきていたが、昭和63年の国道212号線玉川バイパスの開通に伴い急速に宅地化市街地化が進んでいる地域である。対象地はそのような状況にあって水田のまま残されてきた場所である。予備調査では現地表面からの深さ約25~30cm、現況水田の基盤土直下という浅い位置で弥生時代・古墳時代の堅穴建物等が確認されたが、対象地内でも粗密があり、東~南西に帶状に分布する状況が看取された。可能な限り工法変更を事業者に依頼し、それでも遺跡を損なわざるを得ない範囲を本調査の対象とした。また一旦現地での発掘調査が終了したあとに、工事の都合により掘削部分が増え、追加調査を行ったため、最終的な調査面積は398m<sup>2</sup>となった。なお、工事により遺跡が損なわれる部分のみを本調査の対象としたため、工事範囲のなかでも未調査のままの部分が残されていることに留意しなければならない。

調査は、西の区画から重機により表土除去を行い、現況水田基盤土直下の淡橙灰褐色砂質土に掘り込まれた遺構群が検出された。今回の調査で確認された主な遺構は、堅穴建物2軒、掘立柱建物1棟、溝1条、堅穴遺構1基、土坑9基である。以下、これらの遺構及び出土遺物の説明を行う。

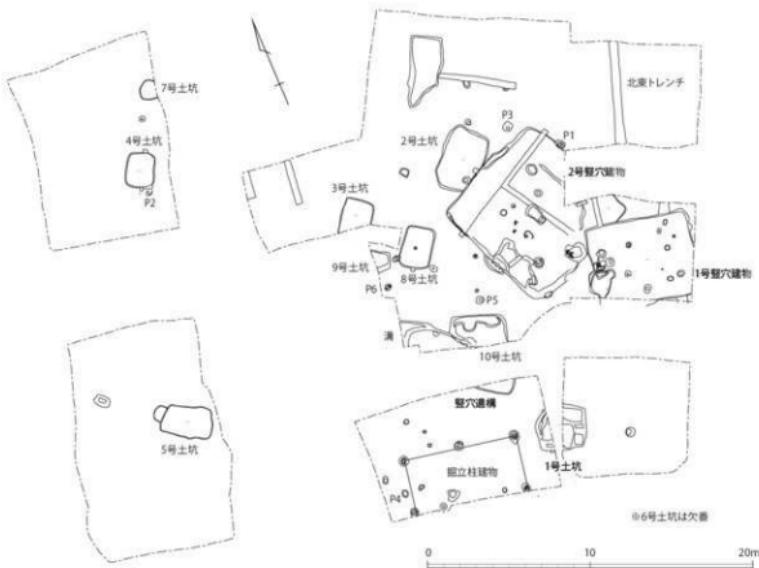
#### (2) 遺構と遺物

##### 1. 堅穴建物 (第5~8図、写真図版2~3)

調査区東側で2軒が切りあって検出された。

##### 1号堅穴建物 (第5・6図、写真図版2・5)

調査区の東端で確認され、2号堅穴建物を切る。南東隅及び南西隅は調査区外へと続く。



第4図 遺構配置図 (1/300)

平面形は東西にやや長い長方形を呈し、調査区内で確認された規模は、東西約4.9m、南北約3.8m。検出面からの深さは6~14cmを測る。床面で確認されたP1~P4を主柱穴と判断した。主柱穴の床面からの深さは8~23cmを測る。壁際溝は検出されなかった。

西壁中央に、壁から張り出さないタイプのカマドが敷設されており、カマドの南には浅い土坑が隣接している。カマドの残存状況は非常に悪く、第5図では浅い土坑に被るように細長い高まりが1つ見えるが、これはカマドの袖ではなく、この高まりと火床面の間のわずかな高まりが左袖と考えられる。火床面の北には右袖とすべき高まりは確認できなかった。袖石も残っていなかったが、火床面の北の掘り込みが右袖の袖石抜き取り痕、火床面東の掘り込みがカマド前面の灰の掻き出し痕である可能性が考えられる。火床面の規模は、東西約28cm×南北約25cmを測るが、土の赤化度は強くない。火床面の西で甕が2個体検出されており、カマドで煮炊き用として、または支脚として使用されたものと思われる。

遺物は、竪穴建物の床面付近で、須恵器の坏身、土師器の壺・小壺などが出土している。

## 2号竪穴建物（第7・8図、写真図版3・5）

調査区東側で確認され、2号土坑を切り、1号竪穴建物と中世のP1に切られる。建物の東側の一部は調査区外に続く。

平面形はほぼ正方形を呈し、調査区内で確認された規模は、南西-北東軸で約6.0m、南東-北西軸で約6.4m、検出面からの深さは4~28cmを測る。床面で確認されたP1・P2・P4を主柱穴と判断したが、東の主柱穴は確認できなかった。主柱穴の床面からの深さは15~35cmを測る。P3は建物のほぼ中央にあり、わずかに焼土が認められることから、炉と考えられる。規模は、長軸約104cm、短軸約60cm、床面からの深さ約24cmを測る。

南東壁際のはば中央に約100cm×84cm、深さ約24cmの土坑があり、屋内土坑と思われる。壁際溝は検出されなかった。

遺物は、床面からやや浮いた状態で土師器壺・壺・高杯・塊など、屋内土坑の中では土師器壺・塊、埋土中から土師器壺・台付壺・二重口縁壺・高杯・脚付塊・器台などが出土している。この竪穴建物は1号竪穴建物と切り合い関係にあることから、1号竪穴建物の遺物が埋土中に混入している可能性がある。

## 2. 堀立柱建物（第7・8図、写真図版3・5）

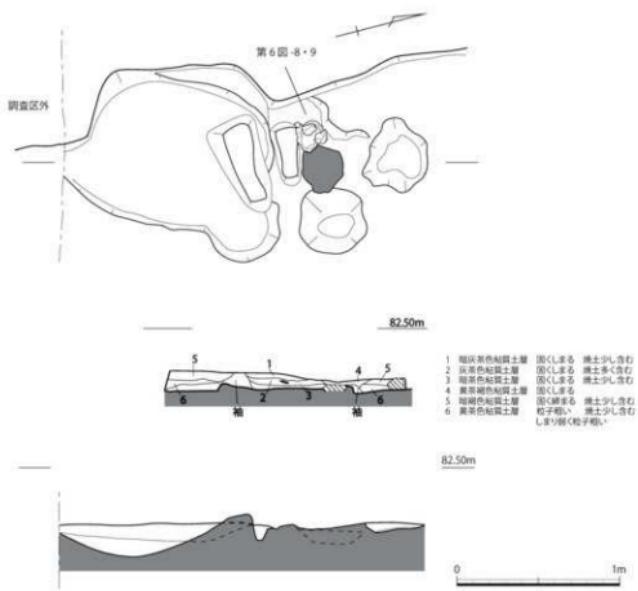
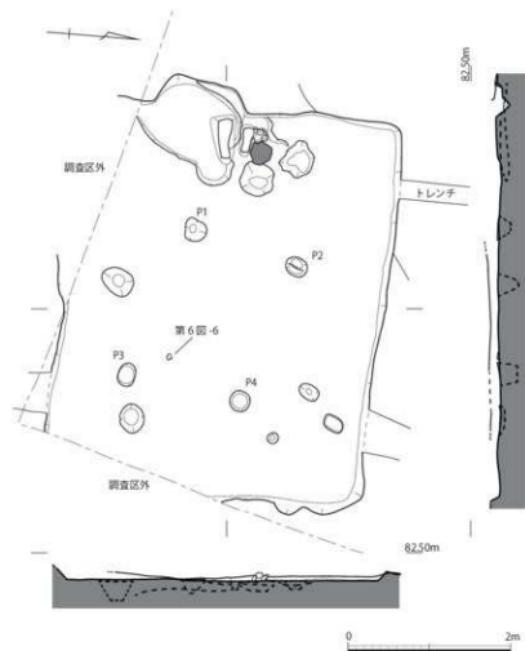
調査区南端で1棟検出された。他の遺構と切り合はず単独で存在しており、調査区外に展開する。調査区内では主軸方向をN86°Wにとり、柱間は2間×1間+αの側柱建物である。調査区内での規模は柱穴間の心寸距離で約5.3m×約2.6m+α、面積約13.78m<sup>2</sup>+α、検出面での柱穴の掘り方直径は約36~45cm、深さ約23~61cmを測る。柱穴底面の形状から、建替えは行われなかったものと思われる。調査区南端で建物内部に少し小さめの柱穴（直径約30cm、深さ約32cm）が1つ検出されており（1建P3）、間仕切り等の可能性が考えられる。

遺物は、北西隅のP2の埋土中から、青磁碗の底部が1点出土している（第8図20）。

## 3. 溝（第9図、写真図版3）

調査区ほぼ中央で、10号土坑を切る南東から北西方向の溝が1条検出された。南および西側は調査区外に続く。調査区内で確認された規模は、長さ約2.8m、幅約1.4m、深さは36cmを測る。東側の溝の肩は急角度で立ち上がるが、溝の底は西に向かって緩やかに傾斜している。

埋土中から、弥生土器壺が出土している（第9図1・2）。ただし、小片であるため傾きは確実でない。



第5図 1号竪穴建物・カマド実測図 (1/60、1/30)

#### 4. 穴室遺構（第9図、写真図版3）

調査区中央やや南寄りで確認された遺構で、隅丸方形または隅丸長方形を呈すると思われるが、南隅以外は調査区外へと統くため不明である。調査区内で確認された規模は、長軸約1.8m、短軸約0.8m、を測る。床面は平らで、検出面からの深さは27cmを測る。埋土中からは弥生土器の大型の甕の破片が複数出土したが、接合せず、図示不能である。弥生時代中～後期のものと思われる。

#### 5. 土坑（第10～13図、写真図版3～5）

調査区中央から西にかけて9基の土坑が確認された。なお、5号土坑の西側の半円形の部分を当初6号土坑としていたが、浅い掘り込み（検出面からの深さ約4cm）であったため、6号土坑は欠番とした。

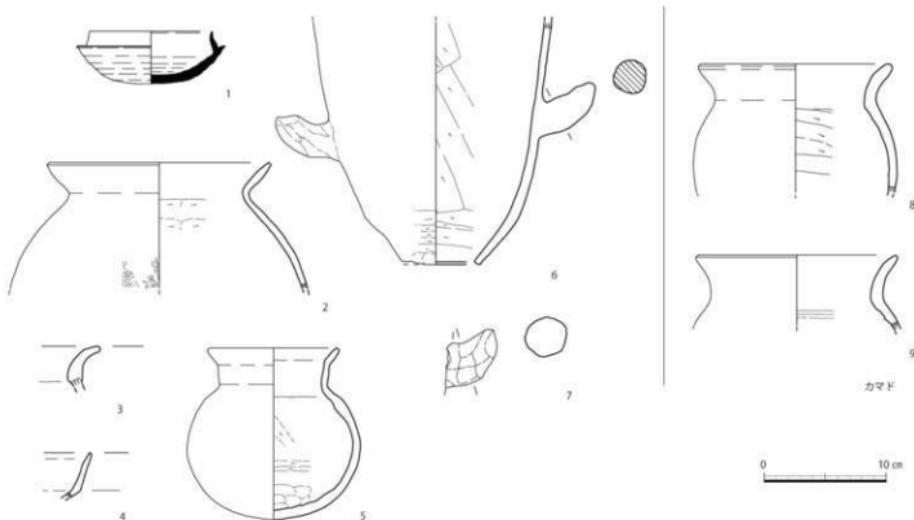
##### 1号土坑（第10図、写真図版3）

調査区南端で確認され、調査区の都合上、中央部は未調査である。調査区内での検出状況から、平面形は五角形に近い不定形を呈すると考えられる。検出面での規模は、南北約2.05m、東西約2.2mを測る。底面には複数の段が見られ、最も深い部分で検出面からの深さ約19cmを測る。壁は開きながら立ち上がる。

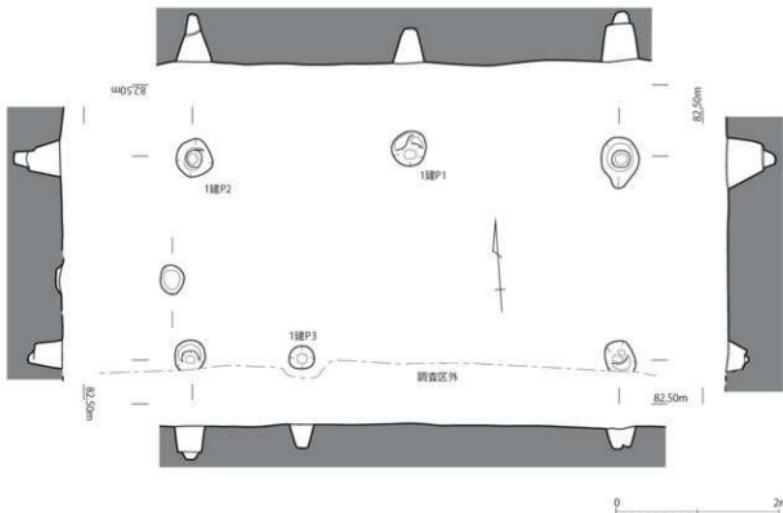
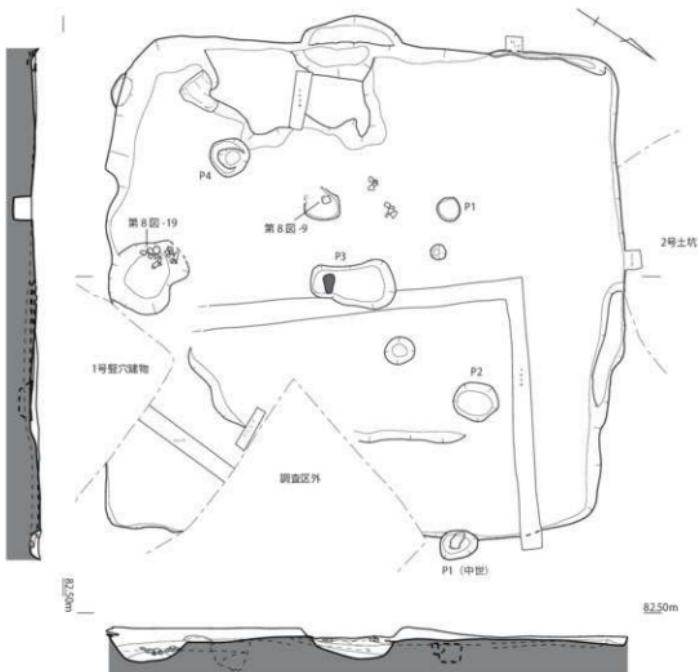
埋土中から、弥生土器甕・壺が出土している（第12図1～4）。

##### 2号土坑（第10図、写真図版4）

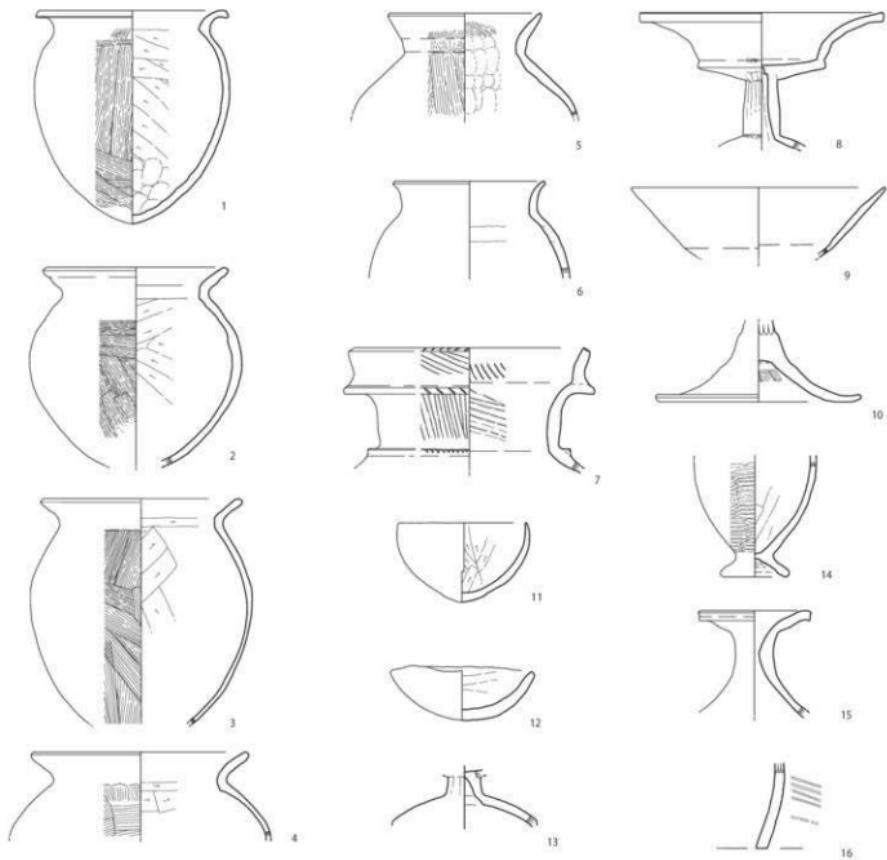
調査区中央やや北寄りで確認された遺構である。2号竪穴建物に切られる。平面は歪な長方形を呈する。検出面での規模は、長軸約2.9m、短軸約2.0mを測る。底面は大小の川原石が多数表出しているものの平らになって



第6図 1号竪穴建物出土遺物実測図（1/4）



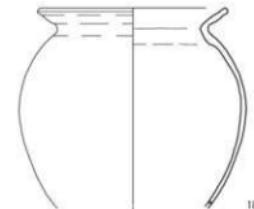
第7図 2号竖穴建物・掘立柱建物実測図 (1/60)



2号竖穴建物



2号竖穴建物 P2



掘立柱建物 P2



2号竖穴建物土坑

第8図 2号竖穴建物・掘立柱建物出土遺物実測図 (1/4)

おり、検出面からの深さは約13cmである。壁は開きながら立ち上がる。2号竪穴建物との切り合い付近に底面から約22cm掘り込まれたピット状の穴がある。

埋土中から、弥生土器の甕・高杯・器台が出土している（第12図5～7）。

#### 3号土坑（第10図、写真図版4）

調査区中央部で確認された遺構である。南側は調査区外へと続く。平面は長方形を呈すると考えられる。調査区内での規模は、長軸約1.75m、短軸約1.45mを測る。底面は小さい川原石が表出しているものの平らになっており、検出面からの深さは約20cmである。壁は開き気味に立ち上がる。

埋土中から、弥生土器甕の破片が出土している（第12図8）。

#### 4号土坑（第10図、写真図版4）

調査区西側北寄りで確認された遺構である。平面は隅丸長方形を呈する。検出面での規模は、長軸約1.65m、短軸約1.35mを測る。底面は大小の川原石が多数表出しているものの平らになっており、壁も直線的に立ち上がる。検出面からの深さは約39cmである。

埋土中からは弥生土器甕が多数出土している（第13図）。

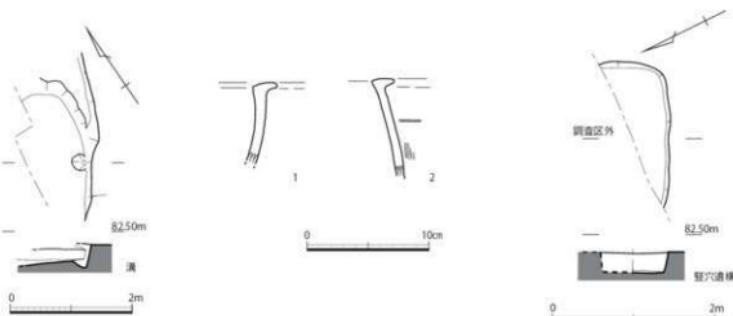
#### 5号土坑（第10図、写真図版4）

調査区西側南寄りで確認された遺構である。平面は歪な隅丸長方形を呈する。検出面での規模は、当初6号土坑としていた北西辺の半円形の部分を含む長軸が約2.8m（含まない場合は約2.4m）、短軸約1.5mを測る。底面はほかの遺構に比べれば川原石等の表出はほとんど見られないものの凹凸があり、検出面からの深さは最深で約11cmを測る。壁は緩やかに開きながら立ち上がる。

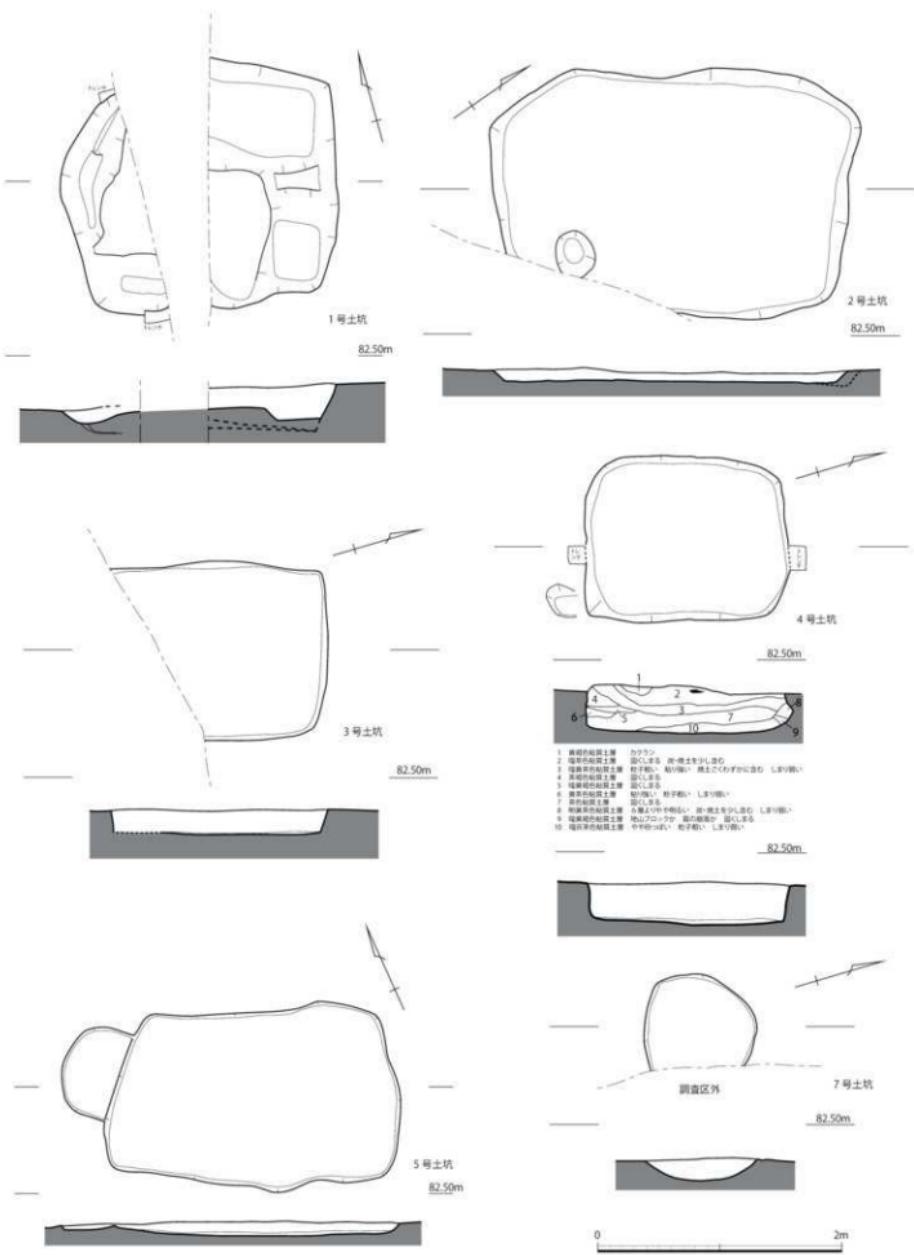
埋土中からは土器片が複数出土しているが、時期不明であり、図示できるものはなかった。

#### 7号土坑（第11図、写真図版4）

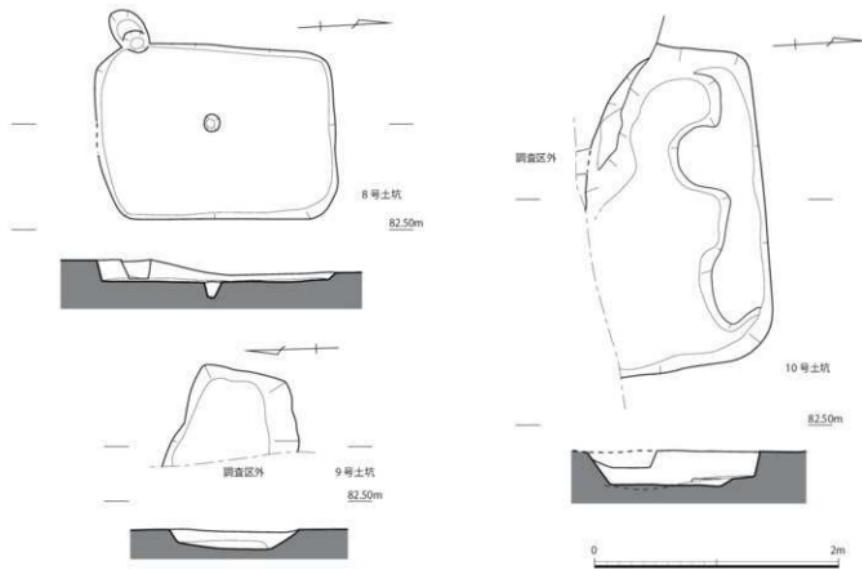
調査区西側北寄り、4号土坑の近くで確認された遺構である。東側は調査区外へと続く。平面は歪な円形を呈すると考えられる。調査区内での規模は、直径約0.8mを測る。底面は大小の川原石が多数表出し、断面は皿状を



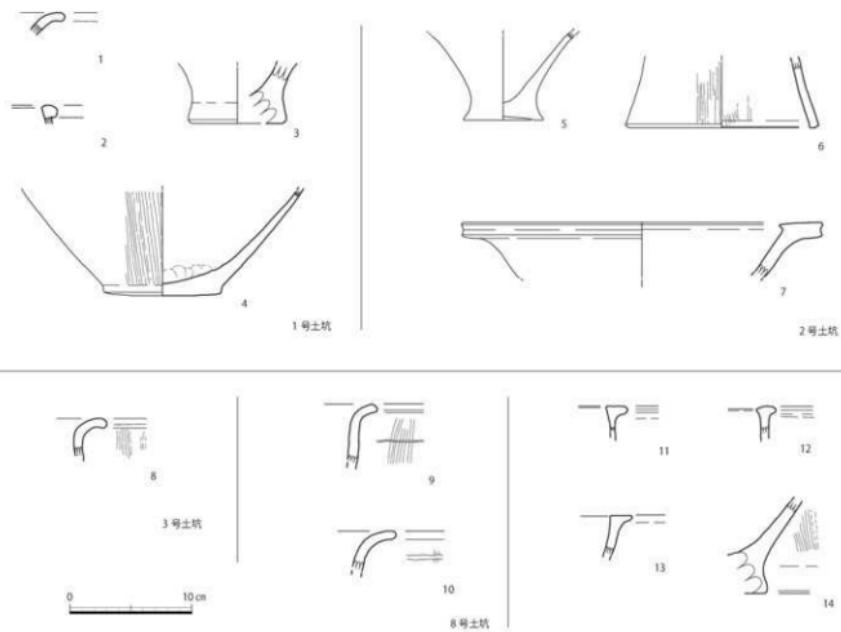
第9図 溝・竪穴遺構、溝出土遺物実測図（1/80、1/60、1/4）



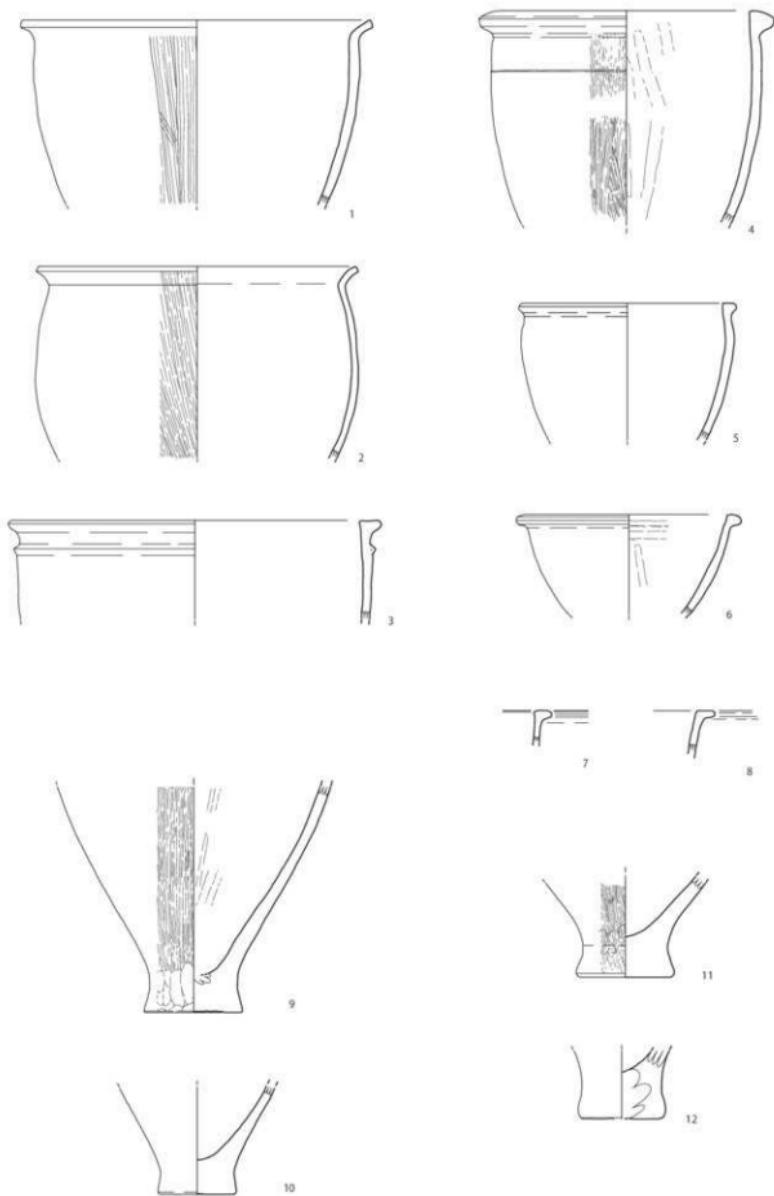
第10図 土坑実測図①(1/40)



第11図 土坑実測図②(1/40)



第12図 土坑出土遺物実測図①(1/4)



第13図 土坑出土遺物実測図②(1/4)

※全て4号土坑出土

呈する。検出面からの深さは約 18 cm である。

埋土中からは弥生土器の小片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 8 号土坑（第 11 図、写真図版 4）

調査区中央、3 号土坑の近くで確認された遺構である。平面は隅丸長方形を呈する。検出面での規模は、長軸約 1.98m、短軸約 1.45m を測る。底面は大小の川原石がいくつか表出するが、平らに整えられており、検出面からの深さは約 21 cm を測る。底面中央に直径約 15 cm、底面からの深さ約 14 cm のピット状の穴がある。壁はやや開きながら直線的に立ち上がる。

埋土中からは弥生土器甕の破片が出土している（第 12 図 9・10）。

#### 9 号土坑（第 11 図、写真図版 4）

調査区中央、8 号土坑の西隣で確認された遺構である。西側は調査区外へと続く。調査区内での平面形は台形のような不定形を呈する。調査区内での規模は、南北約 1.1m、東西約 0.8m を測る。底面は川原石等の表出は見られないものの凹凸があり、検出面からの深さは最深で 14 cm である。壁は緩やかに開きながら立ち上がる。

埋土中からは土器片が出土しているが、時期不明であり、図示できるものはなかった。

#### 10 号土坑（第 11 図、写真図版 4）

調査区中央、8・9 号土坑の南で確認された遺構である。西側の一部を溝に切られ、南側は調査区外へと続く。平面は隅丸方形を呈すると考えられる。調査区内での規模は、長軸約 2.7m、短軸約 1.45m を測る。底面は北壁側と南壁側に段があり、最も深い場所で検出面からの深さ約 32 cm である。川原石が数個表出しているものの、中央部は平らになっている。北側の壁は急角度で、南側は開きながら立ち上がる。

埋土中からは、弥生土器甕の破片が出土している（第 12 図 11～14）。

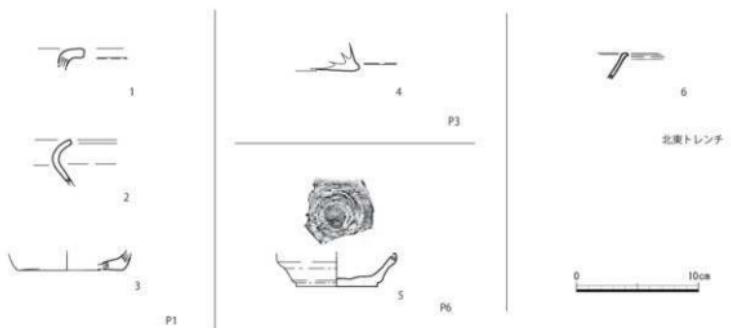
### 6. その他の遺物（第 14・15 図、写真図版 5）

前節までに記述してきた遺構に伴う遺物のほかにも、ピットやトレンチから遺物が出土している。

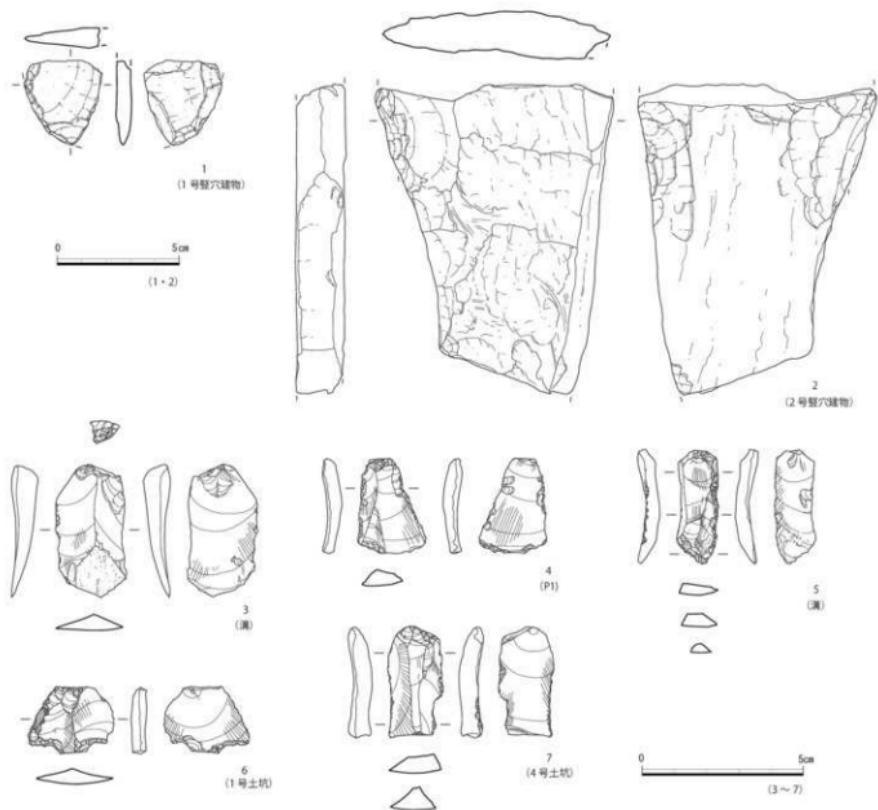
遺物が出土したピットは 6 つあるが、遺物を図示できたピットは P1・P3・P6 の 3 つであり、2 号竪穴建物の周辺に分布している。

第 14 図はピット・トレンチからの出土遺物である。1～3 は P1 出土である。1 は弥生土器甕の口縁部、2 は土器甕の口縁部、3 は土師質土器甕の底部である。P1 は 2 号竪穴建物を切っているため、弥生土器や土師器が混入したものと思われる。4 は P3 出土の弥生土器甕の底部片である。5 は P6 出土の土師質土器甕である。底部内面には同心円状の當て具痕が残る。6 は北東トレンチから出土した白磁の口縁片である。端部は平坦に仕上げている。

第 15 図は調査区内から出土した石器である。1・2 は打製石斧である。1 は 1 号竪穴建物、2 は 2 号竪穴建物の埋土中からの出土。3～7 は黒曜石製の使用痕剥片である。3・5 は溝、4 は P1、6 は 1 号土坑、7 は 4 号土坑出土。5 は刺突具の可能性がある。



第14図 その他の出土遺物実測図 (1/4)



第15図 石器実測図 (1/2, 2/3)

## IV 総括

今回の調査では、堅穴建物2軒、掘立柱建物1棟、溝1条、堅穴造構1基、土坑9基が確認された。まずは出土遺物から、各遺構の時期を考察してみる。

堅穴建物はいずれも残りが浅く切り合いもあるため、床面に近い位置からの出土であっても、他の時期の遺物が混入していることがあり注意が必要である。例えば1号堅穴建物出土遺物のうち、第6図2の古墳時代初頭の特徴をもつ土師器甕がこれに該当するであろう。その1号堅穴建物にはカマドが備え付けられ、MT15の特徴をもつ須恵器壺が出土しているものの、土師器甕や壺・瓶は少し時期が下る要素が見られ、大まかに古墳時代後期と捉えたい。一方、2号堅穴建物の出土遺物は概ね弥生時代後期終末～古墳時代前期前半に位置付けることができ、P2出土高杯（第8図17）は弥生時代後期終末、土坑出土の甕（同18・19）は弥生時代後期終末～古墳時代初頭と考えられることから、これらが2号堅穴建物の時期を示すものと捉える。掘立柱建物では柱穴から青磁碗の底部破片が出土しており、やや粗悪化傾向がみられることや全面施釉後に高台内の釉を環状に削っていることから、概ね14世紀ごろと考えておきたい。溝から出土した弥生土器甕は、小片のため傾きが不確実であるが、口縁の形状から弥生時代中期初頭と考えられる。堅穴造構からは、図示はできなかったものの大型の弥生土器甕の破片が出土しており、弥生時代の遺構であろう。土坑9基のうち4号土坑は今回の調査の中で最もまとまって土器が出土しており、埋土の堆積状況は貯蔵穴のものに似ている。出土遺物の大部分は弥生土器甕で、口縁と底部の形状から弥生時代前期末～中期初頭に位置付けられよう。そのほかの土坑は、1号は弥生時代中期中頃～中期後半、2号は同中期中頃～後期前半、3号は同前期後半頃か、8号は同前期後半～中期初頭、10号は同中期前半～中期中頃の土器が出土しており、弥生土器小片が出土した7号や時期不明の土器片が出土した5・9号も含め、土坑は弥生時代前期後半から後期前半にかけてのものと考えられる。

以上を時系列としてまとめると、本遺跡は弥生時代前期末～中期初頭頃の土坑（貯蔵穴か）の掘削に始まり、同後期前半頃まで生活域の一部として断続的に利用され、同後期中頃～古墳時代前期前半頃に至り居住区としての利用が開始されたものの、大きな河川に近いという立地も関係してか、集落としての発展はうかがえず、古墳時代後期や中世に単発的に再び生活域として利用された、と想定することができる。

また、今回確認された遺構の多くは、調査対象地の北西側から南東側にかけての帶状の範囲にあり、この遺構集中範囲の北側から北東側には疊層が見られたものの自然の堆積ではなく、現在の水田を造成する際に埋め立てたものと判断した。このような状況から、このあたりの旧地形は、北側が花月川に向かって落ち込んでいると捉えることができ、今回の調査地は沖積微高地と花月川に向かって下がっていく地形の境界付近にあるものと考えられ、当時の人々が周辺より少し高い地形を利用して断続的に生活域としていたものと思われる。

（参考文献）遺物の時期の判断にあたっては、以下の報告書・論文等を参考にした。

弥生土器：渡邊隆行編『吹上VI～自然科學分析調査の記録・調査の総括～』

日田市埋蔵文化財調査報告第112集（市内道路発掘調査報告13）日田市教育委員会 2014

須恵器：田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981

土師器：渡邊隆行『筑後川上流域（豊後西部・日田盆地）の古式土師器の状況』

『九州島における古式土師器』第19回九州前方後円墳研究会・長崎大会発表要旨集・基本資料集 九州前方後円墳研究会 2017

鹿蹄舞打はか編『仁右衛門頃遺跡！』一般国道210号浮羽バイパス完形鹿藏文化財調査報告第12集 福岡県教育委員会 2009

陶磁器：中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』齊藤社 1995

土師質土器：渡邊隆行『慈眼山遺跡7次』日田市埋蔵文化財調査報告第95集 日田市教育委員会 2010

第1表 土器観察表①

団数 番号	%	出土遺構	層別	器種	測量 (cm)				測量	地質	地成	色調	備考			
					11幅	側面幅	前後	高さ					内面 (面)	外面 (面)		
II 1	1周	一底	直筒部	平身	10.0	—	—	4.3	アラマ、ナガマ	クダマ、ナガマ	BCGH	良	灰褐色	灰褐色	受挫壁(12.2)	
II 2	2周	1周底+2周上	土師器	便	16.4	—	—	16.0	アラマ、ナガマ	ナガマ、ナガマ	ABCDH	良	淡褐色	淡褐色	上部外縁の一部は黒褐色	
II 3	3周	下層	土師器	便	—	—	—	13.0	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色		
II 4	4周	一底	土師器	平身	—	—	—	(3.2)	アラマ、ナガマ	アラマ、ナガマ	BCG	良	暗褐色	暗褐色	胎土に金屬荷存有り	
II 5	5周	上層・下層・土上層	土師器	小口	10.8	14.2	—	14.1	アラマ、ナガマ	ナガマ、不規	ABCH	良	淡褐色	淡褐色	断面外縁に黒褐色あり	
II 6	6周	上層	土師器	便	—	—	—	8.2	19.0	アラマ	BCD	良	淡褐色	淡褐色	底部外縁に基盤あり	
II 7	7周	下層	土師器	便	—	—	—	—	—	アラマ	ABCH	良	—	淡褐色	胎子のみ	
II 8	8周	カバツ	土師器	便	15.8	16.6	—	16.0	アラマ、不規	アラマ	ABCH	良	暗褐色～暗褐色	淡褐色	上部外縁に後熱斑(?)	
II 9	9周	カバツ	土師器	便	10.6	—	—	(4.5)	アラマ、エジソン、ナガマ	ナガマ	ABCH	良	淡褐色	淡褐色	断面外縁に黒褐色あり	
III 1	2周	上層・下層	土師器	便	15.8	16.8	—	17.2	アラマ、ナガマ	アラマ、ナガマ	ABCG	良	淡褐色	淡褐色	注記変形、下半外縁に基盤あり	
III 2	2周	一底・下層	土師器	便	10.2	17.4	—	16.0	アラマ、ナガマ	アラマ、ナガマ、不規	ABCH	良	暗褐色	暗褐色		
III 3	2周	一底	土師器	便	10.6	—	—	16.0	アラマ、ナガマ	アラマ、ナガマ、不規	ABCD	良	淡褐色	淡褐色		
III 4	2周	一底	土師器	便	10.7	—	—	(6.0)	アラマ、ナガマ、不規	アラマ、ナガマ	ABCG	良	淡褐色	淡褐色	口縁外縁に基盤	
III 5	2周	下層	生土土器	便	10.2	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABCDH	良	暗褐色	淡褐色		
III 6	2周	下層	土師器	便	12.6	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABC	不良	明淡褐色	明淡褐色	断面内面に胎土結合層あり	
III 7	2周	一底	土師器	二重口縁	19.0	—	—	16.0	アラマ、ナガマ	アラマ、ナガマ	ABC	良	淡褐色	淡褐色	口縫合部・底縁に黒褐色あり	
III 8	6周	一底	土師器	高井	20.0	—	—	—	アラマ、ナガマ、不規	アラマ、ナガマ	ABC	良	淡褐色	淡褐色		
III 9	2周	4周・下層	土師器	高井	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABC	良	淡褐色	淡褐色		
III 10	2周	下層	土師器	高井	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABC	良	暗褐色	暗褐色	脚部のみ	
III 11	2周	下層	土師器	便	10.5	—	—	6.5	アラマ	アラマ	ABCH	良	暗褐色	淡褐色	注記変形、口縫に黒褐色あり	
III 12	2周	下層	土師器	便	11.8	—	—	4.5	ナガマ	ナガマ	ABC	良	淡褐色	淡褐色	底縁に黒褐色・断面内面に黒褐色あり	
III 13	2周	一底	土師器	脚付焼	—	—	—	14.5	ナガマ	ナガマ	ABCH	小不良	暗褐色	暗褐色	脚部のみ	
III 14	2周	一底	土師器	付合焼	—	—	—	8.6	アラマ	アラマ	ABCGH	良	淡褐色	淡褐色	外縁に黒褐色あり	
III 15	2周	一底	生土土器	脚付	9.2	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色あり	
III 16	2周	下層	土師器	便	—	—	—	—	アラマ	アラマ	ABC	良	暗褐色	暗褐色		
III 17	2周	P2	生土土器	高井	—	—	—	—	アラマ	アラマ	ABC	良	明淡褐色	暗褐色	泥瓦1ヶ月所あり	
III 18	2周	屋内土坑	土師器	便	10.6	16.6	—	16.0	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	淡褐色	淡褐色	外縁に黒褐色あり	
III 19	2周	屋内土坑No.1	土師器	便	10.6	11.0	—	15.0	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色		
III 20	1周	P2	青磁	便	—	—	—	5.0	(2.0) 薄狭	薄狭、凹縁～ナガマ	ABC	良	淡褐色	淡褐色	外縁に薄狭部で当接、内面に込みこみ式横縫合	
IV 1	1周	一底	生土土器	便	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	小所につき縫合不確実	
IV 2	2周	一底	生土土器	便	—	—	—	(3.2)	ナガマ	ナガマ	ABCDH	良	暗褐色	暗褐色	底部の2所につき縫合不確実	
IV 12	1周	1土	一底	生土土器	便	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	小所につき縫合不確実
IV 12	2周	1土	下層	生土土器	便	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABCD	良	暗褐色	暗褐色	小所につき縫合不確実
IV 12	3周	1土	一底	生土土器	便	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABCDH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色あり
IV 14	4周	1土	上層	生土土器	便	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色あり
IV 15	5周	2土	上層	生土土器	便	—	—	—	—	ナガマ	ナガマ	ABC	良	暗褐色	暗褐色	底縁は少く円錐形(直底板張り直角脚で計測)
IV 16	6周	2土	上層	生土土器	脚付	—	—	—	(11.0)	(3.4) ナガマ	ナガマ	ABC	良	淡褐色	淡褐色	底縁は少く円錐形(直底板張り直角脚で計測)
IV 17	7周	2土	上層	生土土器	高井	—	—	—	(4.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	淡褐色	淡褐色	底縁は少く円錐形
IV 18	8周	3土	上層	生土土器	便	—	—	—	(3.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色あり
IV 19	9周	4土	一底	生土土器	便	—	—	—	(4.0)	ナガマ	ナガマ	BCGH	良	淡褐色	淡褐色	胎土に金屬荷存有り
IV 20	10周	4土	一底	生土土器	便	—	—	—	(3.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	胎土に金屬荷存有り
IV 21	11周	10土	一底	生土土器	便	—	—	—	(2.0)	ナガマ	ナガマ	ABCDH	良	暗褐色	暗褐色	胎土に金屬荷存有り
IV 22	12周	10土	一底	生土土器	便	—	—	—	(2.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	胎土に金屬荷存有り
IV 23	13周	10土	一底	生土土器	便	—	—	—	(2.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	胎土に金屬荷存有り
IV 24	14周	10土	一底	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	胎土に金屬荷存有り
IV 25	14周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 26	15周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 27	16周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 28	17周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 29	18周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 30	19周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 31	20周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 32	21周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 33	22周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 34	23周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 35	24周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 36	25周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 37	26周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 38	27周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 39	28周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 40	29周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 41	30周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 42	31周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 43	32周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 44	33周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 45	34周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 46	35周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 47	36周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 48	37周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 49	38周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 50	39周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 51	40周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 52	41周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 53	42周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 54	43周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 55	44周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 56	45周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 57	46周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 58	47周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 59	48周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 60	49周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 61	50周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 62	51周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 63	52周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 64	53周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 65	54周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH	良	暗褐色	暗褐色	外縁に黒褐色の胎土荷物あり
IV 66	55周	4土	上層	生土土器	便	—	—	—	(1.0)	ナガマ	ナガマ	ABCH				

第2表 土器観察表②

団版 番号	№	出土遺構	種別	器種	重量(g)				胎土	焼成	色調		備考	
					口径	腹径	底径	高さ			内面(裏)	外面(表)		
13	10	8土・中層・上層+1土	生土器	甕	-	-	6.6	9.0	不明	ABCDEF	眞	褐褐色	明赤褐色	
13	11	4土・上層	生土器	甕	-	-	9.0	10.0	平頭	ABCDEF	眞	黄褐色～	淡褐色	
13	12	4土・中層	生土器	甕	-	-	(8.0)	9.0	平頭	ABCDEF	眞	淡褐色	暗小褐色	外面に被熱痕あり
14	1	P1・一級	生土器	甕	-	-	10.0	10.0	平頭	ABCDEF	眞	淡褐色	淡褐色	
14	2	P1・低	土師質土器	甕	-	-	(3.0)	10.0	平頭+テッカ	ABCDEF	眞	淡茶褐色	淡茶褐色	
14	3	P1・低	土師質土器	甕	-	-	(8.0)	10.0	平頭+テッカ	ABCDEF	眞	淡褐色	淡褐色	底部は赤切口縁に～2箇所あり
14	4	P3・低	生土器	甕	-	-	(2.0)	-	テッカ、不明	ABCDEF	眞	-	赤褐色	
14	5	P6・低	土師質土器	小甕	-	-	6.0	12.0	テッカ、当て無縫	ABCDEF	眞	淡赤褐色	淡褐色	底部外側は赤切口縁
14	6	-・北窓+レンガ	白磁	瓶?	-	-	(2.0)	8.0	瓶縁	ABCDEF	眞	淡オーブ色	淡オーブ色	

法量の単位はcm。()書きは、残存と復原を表す。

胎土：A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子 G雲母 H砂粒

第3表 石器観察表

団版 番号	№	出土遺構	器種	法量(cm)			重さ (g)	材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
15	1	1号壁穴遺物	打製石斧	(3.45)	(3.20)	(0.80)	10.10	不明	破片
15	2	2号壁穴遺物	打製石斧	(12.70)	(9.20)	(2.10)	322.23	不明	端部及び側刃の一部欠損
15	3	廣	使用痕剥片	4.05	2.15	0.85	5.03	黑曜石	
15	4	P1	使用痕剥片	2.90	2.10	0.60	2.83	黑曜石	
15	5	廣	使用痕剥片	3.50	1.30	0.70	2.46	黑曜石	削工具?
15	6	1号土坑	使用痕剥片	2.05	2.65	0.50	2.43	黑曜石	
15	7	4号土坑下層	使用痕剥片	3.40	1.70	0.75	4.48	黑曜石	

写真図版 1



調査区全景（追加調査前・真上から / 画面上が西）



追加調査地の一部（東から）



1号竖穴建物（南東から）



1号竖穴建物（東から）



1号竖穴建物 カマド掘り下げ前



1号竖穴建物 カマド土層



1号竖穴建物 カマド掘り下げ状況



1号竖穴建物 カマド完掘状況

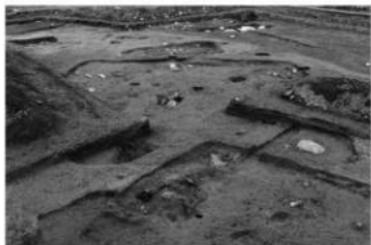


1号竖穴建物 遺物出土状況

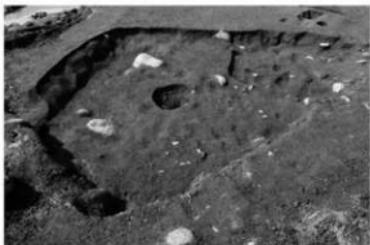


1号竖穴建物 遺物出土状況

写真図版 3



2号竪穴建物（南東から）



2号竪穴建物 南隅（北東から）



2号竪穴建物 土坑内遺物出土状況



掘立柱建物（北から）



溝（東から）



竪穴遺構（南から）



1号土坑東半（東から）



1号土坑西半（西から）



2号土坑（東から）



3号土坑（東から）



4号土坑（北東から）



5号土坑（北東から）



7号土坑（北東から）



8号土坑（南西から）

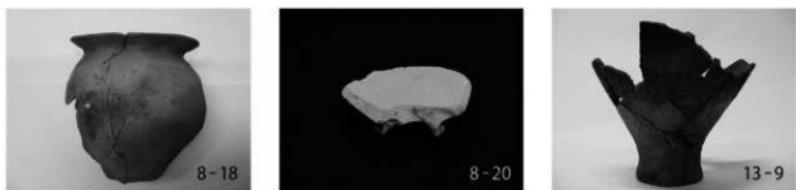
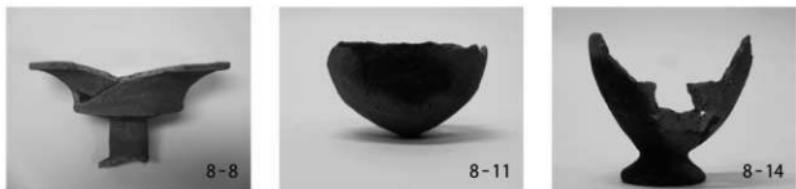
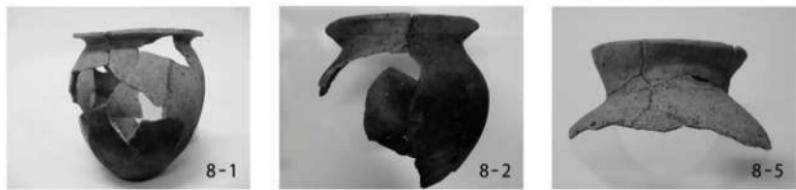
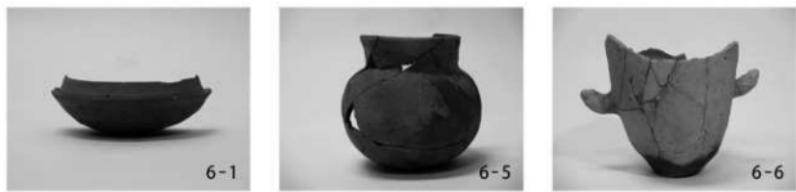


9号土坑（北東から）



10号土坑と溝（東から）

写真図版 5



報告書抄録

ふりがな	みずまちいせき
書名	水町遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第140集
編著者名	行時 桂子
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-8601 日田市田島2丁目6番1号（電話：0973-24-7171、FAX：0973-24-7024）
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2丁目6番1号
発行年月日	2021年（令和3年）3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
水町遺跡	大分県日田市 大字渡里	44204-6	204384	33° 19' 32"	130° 55' 36"	2018.12.07 ~ 2019.03.06	約 398m <sup>2</sup>	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水町遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 中世	堅穴建物2、掘立柱建物1、溝1、 堅穴遺構1、土坑9	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、石器	弥生時代・古墳時代・中世に、存続期間の長い小規模の集落が断続的に存在していたと考えられる。

要約	水町遺跡は筑後川上流域にある日田盆地の北西寄り、筑後川支流花月川の左岸、標高約82mを測る沖積微高地に位置する。このあたりは国道212号玉川バイパス沿いに住宅地・商業地が急速に広がりつつある地域であるが、調査地は水田のまま残されていた。 調査では、水田基盤土直下の浅い位置で、弥生時代前期末～後期前半頃の土坑・溝・堅穴遺構、弥生時代後期中頃～古墳時代前期前半頃及び古墳時代後期の堅穴建物、中世（14世紀代）の掘立柱建物が確認された。 遺構の時期は幅広いものの遺構数は少なく、弥生時代・古墳時代・中世に存続期間の短い小規模な集落が断続的に存在したことが看取できる。大きな河川に近いという立地も関係したためか、生活基盤としては安定せず、集落としての発展はうかがえなかったものと思われる。 また今回確認された遺構の多くは、調査対象地の北西側から南東側にかけての帯状の範囲に集中しており、それより北～北東側は水田化の際に埋め立てられていたことから、旧地形は花月川に向かって落ち込んでいたと考えられ、沖積微高地から川に向かって下がっていく地形の境界付近の少し高い場所を選んで、断続的に生活域として利用されたものと思われる。
----	---

## 水町遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第140集

2021年（令和3年）3月25日

編集 日田市教育庁 文化財保護課  
 〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6番1号

発行 日田市教育委員会  
 〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6番1号

印刷 日田時報紙器印刷株式会社  
 〒877-0086 大分県日田市二串町345-3





日田市